CLUBMAN RACE

2022 SUZUKA CLUB MAN RACE Round 1

2022 鈴鹿クラブマンレース Round 1 開催報告書

■開催概要

●シリーズ名称：2022 鈴鹿クラブマンレースRound1
●主催　　：オートスポーツクラブアツタ（AASC）・鈴鹿モータースポーツクラブ（SMSC）
（サーキットトライアル）淀レーシングクラブ（チーム淀）主催
●協力　　：ARC、ARCN、KRHC、OCCK、チーム淀
●後援　　：鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会（FEクラス）
●競技　　：JAF公認・準国内格式　公認番号2022-2001
●会場　　：鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース（5.807km）
●開催クラス　：総参加台数／136台
クラブマンスポーツ／36台
スーパーFJ／25台
フォーミュラEnjoy／19台
FFチャレンジ／26台
CS2／14台
●併催クラス　：サーキットトライアル／16台
●開催日　　：2022年2月27日（日）
●天候　　：晴れ
●路面　　：ドライ

★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2022/clubman/

■次回レース開催概要

●シリーズ名称：2022鈴鹿クラブマンレースRound2
●開催日　　：2022年4月10日（日）
●主催　　：オート スポーツ クラブ アツタ、AASC、SMSC
●会場　　：鈴鹿サーキット 国際レーシングコース 西コース（3.474km）
●開催クラス　：F4、スーパーFJ、FIT、クラブマンスポーツ（VITA）、CS2、フォーミュラEnjoy

30年ぶりに新しくなった鈴鹿サーキットのロゴ。正式には3月1日からの切り替えとなるため、初めて目にするドライバーも多かった

新しいシーズンが、ついに開幕！
CS2クラスはCクラス、Gクラスの混走レースに。

2021年は、全レースをフルコースで開催したクラブマンレース。ドライバーやお客様が参戦しやすい環境を整える姿勢は、新シーズンの2022年シーズンも継続されています。そのひとつが、CS2クラスに導入されたGクラス。WEST16Cの後継となるウエストレーシング製マシンで、ミッドシップ単座席レーシングカーとして「世界で一番メンテナンスフリーな車両」をコンセプトにする最新マシン。「v.Granz」の名を冠したマシンが、CS2クラスを盛り上げてくれるでしょう。

また、6月のRound4ではCS（VITA）、CS2を対象にした2時間耐久レースを開催。Nゼロ86、BRZ（ZN6/ZC7）を新規クラスに加えることも注目を集めています。

3月からの鈴鹿サーキットロゴ一新に先立って開催された今回のRound1は、午前中に一時的ですが降雨の時間があったものの、レースに大きな影響を与えることはなく、全レースを無事に開催できました。特に印象的だったのがスーパーFJクラス、そしてFFチャレンジクラス。スーパーFJクラスは岡本大地選手、FFチャレンジは松下裕一選手と前年チャンピオンが勝利する結果になりました。それでも2人を最後まで追い込んだ他ドライバーが多く見受けられ、2022年シーズンが混沌とすることを予感させるレースとました。

Cクラス、Gクラスの混走となったCS2クラス。最新マシンが初お披露目され、こちらも話題を振りまきました。

こちらも初登場。CS2のGクラスで使われた「v.Granz」。写真は優勝した＃2大八木龍一郎

■CS2 class

2022年シーズンからGクラス、Cクラスの混走となったCS2クラス。ポールポジションから成瀬茂喜がスタートするが、序盤でドライビングスルーペナルティ（反則スタート）を受けることに。レースはGクラス、そして総合トップに大八木龍一郎が躍り出ると、盤石の走りを披露して逃げ切りにかかる。5番グリッドスタートの東督也も素晴らしい走りで、大八木、いむらせいじのバトルにせまる。Cクラスは松本吉章が先頭で同クラスの入谷敦司、k.kらとの差を広げる。レースは大八木が逃げ切り完勝。Cクラスの松本も、終盤でさらにペースを上げる走りだった。

＃27成瀬茂喜がポールポジションをゲット。2番グリッドは、＃21いむらせいじ

Gクラスの表彰。優勝した大八木龍一郎、2位は東督也、3位いむらせいじ

■CS2 class

Cクラスの表彰で最も高い場所に立った1位の松本吉章。2位は入谷敦司、3位にk.k

■クラブマンスポーツ Class

　ポールポジションからスタートするのはTOMISAN。2番グリッドに大八木龍一郎、そして中里紀夫、新井薫の順でグリッドに並ぶ。レースは大八木がホールショット、そして中里が2番手となり追う展開に。オープニングラップで2台の接触があり、セーフティカーが導入される。大八木を先頭に、4周目でセーフティカーランが解除される。大八木はそのまま逃げ切るかに思われたが、ファイナルラップ1コーナーで中里が大八木をパス。ついにトップに立つと、そのままトップチェッカーを決めた。

ポールポジションの＃133TOMISAN。今回は苦しいレース展開になった

優勝を決め、協賛各社からの目録を手にする中里紀夫。見事な逆転となった

■スーパーFJ class

予選で2分13秒774をマークした冬星が、ポールポジションを獲得。前年王者の岡本大地を2番グリッドに追いやった。レースは冬星と岡本が好スタートを決めて、早くも2台が熱いバトルを展開していく。冬星を先頭に岡本がつづくが、大木—輝、さらに居附明利も素晴らしい走りで上位2台に追い迫るとトップ集団が4台に膨れ上がる。岡本は終盤で冬星をオーバーテイクしてついにトップへ。岡本を追いたい冬星だが、すぐ後ろに居附も迫り、三つ巴でファイナルラップへ。岡本は逃げ切り勝利したが、例年以上に混沌したクラスになることを予感させた。

＃56冬星がポールシッター。1位こそ譲ったが、さらなる飛躍を感じさせる走りを披露した

優勝した岡本大地、2位の冬星、3位の居附明利。同世代の3人が表彰台を占めた

■フォーミュラEnjoy Class

ポールシッターは山崎一平だったが、大川文誠、小嶋禎一らが好スタート。序盤からマイスターズ・クラスの大川が総合でもトップを快走するレースを見せていく。レースは大川、そして山崎を中心に展開されていくと、中盤から後半にかけて山崎は大川をオーバーテイク。2番手を走り切り、少ないチャンスをものにしてトップに躍り出た。終盤でぐんぐんと後続を引き離して、終わってみれば山崎は2位に6秒以上の差をつけて完走。見事なポールtoウィンを決めた。

＃70の山崎一平はポールtoウィン。大川文誠とのバトルは見ごたえがあった

大川とのバトルを制して優勝した山崎一平。我慢の展開が長いレースになったが、見事な逆転劇だった

■フォーミュラEnjoy Class マイスターズカップ

マイスターズ・カップのトップは大川文誠。2位は小嶋禎一、3位に亀蔵となった

■FFチャレンジ class

レースは3番グリッドの神原聖―が好スタートを決めるが、ポールシッターの松下裕―がこれを抑え、トップで1コーナーに進入していく。松下がトップをキープするが、林陽介、林大輔が追いかけて松下の独走を許さない。レースはそのままトップ3が膠着状態のまま終盤へ。松下、林兄弟によるトップ争い、さらに坂和晃を先頭にした三つ巴の3番手争いも白熱度を増してくる。レースはファイナルラップでも、林陽介が松下を猛プッシュ。だが、松下は隙を見せずにポールtoウィンをキープ。レースが苦しかったのか、松下は表彰台で珍しく帽子を右手で高々と掲げて、喜びを表現した。

＃31松下裕一は貫禄のポールtoウィン。だが、2位、3位のドライバーの奮闘がレースを盛り上げた

2位は林陽介、3位の林大輔。この2人が継続参戦すれば、シリーズチャンピオンの行方はわからない

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光ったドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

クラブマンスポーツ Class、開幕戦で大逆転勝利！

中里 紀夫 選手

2019年以来となる鈴鹿選手権での勝利を飾った中里紀夫

Q:鈴鹿での勝利は久しぶりですか。

「VITAに9年参戦してきて、シリーズチャンピオンは3回経験しました。でも2019年から勝ててなかったんです。だからうれしいです」

Q: 予選から振り返っていただけますか。

「予選は赤旗中断があり、決勝もセーフティカー導入があり、難しかった。ただ、トップにそれほどタイムで負けてない自信もありました」

Q: セーフティカーが解除され、再スタートで攻めたように見えました。

「はい。ただブレーキングに失敗して2番手から3番手に順位を落としました。でも、最終ラップで逆転できて、そのあとも冷静に走れました」

Q: うれしい逆転勝利ですね。目標は?

「私は鈴鹿サーキットができた年に生まれていて、今年で60歳。鈴鹿サーキットと同級生なんです。VITAは参戦10年目、4回目のシリーズチャンピオンを獲ります！」